

高野さん (パーソナリティ)	毎月第 2 火曜日のこの時間は、 森林研究・整備機構の方々に、身近な森林のお話をお伺いします。 今月のゲストは、森林総合研究所林木育種センター東北育種場の織邊俊爾さんです。よろしくお願いします。
織邊	よろしくお願いします。
高野さん	これまでは森林総合研究所東北支所の研究員の方々にお話を伺ってきましたが、今日は、林木育種センターの方です。林木育種センター東北育種場ではどのようなことをされているのですか。
織邊	はい、そうですね、私どもの職場では、主に林業などで山に植える樹木の品種改良に関する研究および普及を行っています。成長の良い木、花粉の少ないスギ、また覚えている方もいると思いますが、昨年 1 月のこのコーナーで放送された、マツ材線虫病という病気に強いアカマツ、クロマツの開発を行っています。
高野さん	ん〜なるほど、その中で、今日はどのようなお話をいただけるんですか。
織邊	はい、本日は、リスナーの皆様にも直接ご利用いただける、名木の増殖サービスとして私どもが取り組んでいる、林木遺伝子銀行 1 1 0 番についてお話ししたいと思います。
高野さん	林木遺伝子銀行 1 1 0 番？ほんとに聞いたことないです。
織邊	そうですね。聞かれたことないですよね。林木遺伝子銀行 1 1 0 番とは、天然記念物などの貴重な樹木が、寿命や災害等で枯れてしまう前に、その大切な遺伝子を残すために行っています。簡単に言いますと所有者からの依頼を受けて、その木と全く同じ遺伝子を持ったクローンを所有者の元へお返ししています。私達はこれを里帰りとも呼んでいますが、後継樹は、クローン技術で増やした後、2 年から 3 年を目処に苗を育ててお渡ししています。
高野さん	その林木遺伝子銀行 1 1 0 番、これは全国でおこなわれているものなのですか。
織邊	はい、林木育種センターにおいて全国で行われていますが、東北育種場では青森、岩手、宮城、秋田、山形、新潟の 6 県を担当しています。
高野さん	過去にこの林木遺伝子銀行 1 1 0 番の対象となった木は、どんなものがあるんですか。
織邊	そうですね、例えば、岩手県内ですと滝沢市指定天然記念物の「角掛神社の五竜の藤」が平成 1 8 年から 1 9 年にかけて里帰りしています。樹齢がおよそ 2 0 0 年から 3 0 0 年の老木が 5 本もそろって自然のままに生えているのは大変珍しく、五龍のフジと命名されています。

	また花巻市にある4号線沿いのネズコの巨木である、樹齢1200年の「逆さヒバ」は、木全体が枯れかかってきたことから、110番申請を受けまして現在クローンを育てています。この「逆さヒバ」という名前は昔、弘法大師がこの地を巡業した際に、地面に刺した杖が、そのまま根をはり、大きくなったものと伝えられているようです。
高野さん	なるほど、岩手県以外で対象となった木もあるんですか。
織邊	はい、いくつもございます。青森県の「法光寺参道松並木」、宮城県の「三笠宮殿下御手植の松」、秋田県の「江津の庭梅」、山形県の「大井沢の大栗」、新潟県の「半蔵金の大杉」は里帰りさせました。
高野さん	ほーなるほど。今までに何件くらいこの林木遺伝子銀行110番の申請があったんですか。
織邊	そうですね、平成15年に事業がスタートしまして東北育種場では今まで58件の申請がありました。
高野さん	結構あるもんなんですね。で、どのような申請が多いのでしょうか。
織邊	申請ですね、そうですね、今までにマツ類が16件、スギが12件、サクラ類12件の申請がありました。申請されてくる樹木は、天然記念物や巨樹・名木などが弱ってきて、枯れそうになっているので、なんとかしてもらいたいと、ご相談いただく場合が多いのですが、これらの木は地域のシンボリックな樹木として皆さんに親しまれてきているものなので、そのような木を扱うのはとても緊張しますね。
高野さん	そうですね、もうほんとただの木じゃないですからね。その地域とともに育ってきてずっと見守ってきた木ですからね。具体的には、どのような作業をされるのですか。
織邊	そうですね、具体的にはですね、弱ってきている樹木が多いのですが、なるべくですね元気の良さそうな枝を最小限採取しまして、主につぎ木でクローン苗木を作ります。
高野さん	つぎ木でっていうことなんですが、そのつぎ木の説明をもう少し聞かせてもらえますか。
織邊	はい、当场で行うつぎ木はですね、名木の枝を、別の苗木の幹に接ぎ合わせまして新しいクローンを育成するものです。 ただですね、林木遺伝子銀行110番で取り扱う樹木の種類は様々でして、この中には初めて扱う種類の木もありますし、何種類かあるつぎ木の方法のなかでどれを選択するのか、また、弱ってきている樹木が対象であるため、枯れる寸前や倒れてしまった木から枝を取る場合には、一発勝負のような不安もあります。

高野さん	もう倒れてしまっているものから救い出してクローンを作るってということもあるわけですか。
織邊	あります。
高野さん	なるほど、色々大変そうですね、これは。
織邊	そうですね。このように林木遺伝子銀行 1 1 0 番でクローン苗木を作るとは、なかなか難しいのですが、その分、地域に親しまれた樹木のクローン苗木が里帰りをしまして、地元の皆さんに喜んでいただけた際には、とてもやりがいのある仕事であると感じています。
高野さん	そうですね、やりがいと達成感と、そしてその緊張感からの解放みたいなものもやっぱりありますよね。 なるほどね。林木遺伝子銀行 1 1 0 番について、最後に何かお伝えしたいことはありますか。
織邊	はい、あります。林木遺伝子銀行 1 1 0 番では、貴重な樹木を後世に伝えるものです。ご興味のある方は、東北育種場までご連絡ください。詳しい、申請方法などをご説明させていただきます。最後になりますが天然記念物、地域のシンボル等の樹木の 1 1 0 番の申請をお待ちしております。
高野さん	はい。 さて、滝沢市にある森林総合研究所林木育種センター東北育種場では、ホームページでも仕事内容を紹介していますので、ぜひご覧ください。 この時間は、森林総合研究所林木育種センター東北育種場の織邊さんにお話を伺いました。 ありがとうございました。
織邊	ありがとうございました。